

極秘

三、四、二八 (赤 押 紙)

一、辛亥革命以來年ヲ閱スルコト十有七年其ノ間支那ニ於テハ南北ノ
抗爭ニ加フルニ軍閥相互ノ爭鬭各地ニ相次キ干戈ニ仆ル者饒寡
孤獨ニ泣ク者日ニ益々多キヲ致スノミナラス戰亂ニ依ル秩序混亂
ハ匪賊ノ横行ヲ盛ンナラシメ永年ニ亘ル巨額ノ軍費捻出ハ苛斂誅
求ヲシテ停止スル所ヲ知ラサラシム如此シテ一般國民ノ生活ハ極
度ノ不安ト困憊トニ陥リ支那在留外國人亦安ンシテ業ニ從フニ由
無シ狀況如此ナルヲ以テ戰亂カ一日モ速ニ終熄シ統一セル和平ノ
支那ヲ見ルニ至ラムコトハ外支人ノ均シク熱望スルトコロニシテ
又支那ノ隣邦トシテ利害關係特ニ深キ帝國ノ翹望シテ措カサル所

外務省

S 161531 0001

ナリ

今ヤ山東方面戰況ノ進展ニ伴ヒ動亂京津地方ニ波及セムトスルニ
當リ茲ニ一般ノ均シク抱懷スル熱烈ナル和平ノ希望ヲ表明スルハ
帝國政府ノ責務ナルヲ信スルト共ニ若シ之レヲ機會トシテ南北交
戰者カ世界ノ趨勢ト支那ノ民意トニ適應シタル條件ヲ以テ速ニ和
平ノ商議ニ入ルニ於テハ帝國政府ノ本懷之レニ過クル無キナリ
ニ滿洲ヲシテ内外人安住ノ地タラシメ一般ノ利益ノ爲メニ其ノ經濟
資源ノ開發ニ協力スルコトハ同地方ニ特殊ノ利害關係ヲ有スル帝
國既定ノ方針ニシテ從テ其ノ治安維持ハ帝國ノ最モ重視スル所ナ
ルカ故ニ苟クモ同地方ノ治安ヲ紊シ若クハ之レヲ紊スノ原因ヲ爲
スカ如キ事態ノ發生ハ帝國政府ノ極力阻止セムトスル所ナリ

(赤 押 紙)

外務省

S 161531 0002

REEL No. A-0782

Blank area for text.

確言ス

(赤
梓
紙)

S

161531

0004

戦亂京津地方ニ波及シタル以後ニ於テ武装セル軍隊ノ滿洲ニ出入
スルコトハ其ノ南北何レノ部隊ニ屬スルヲ問ハス同地方ノ治安ヲ
紊スノ因ヲ爲スモノナルヲ以テ若シ不幸ニシテ南北兩交戦者ノ事
情カ和平ノ商議ニ入ルヲ許サスシテ戦争ヲ繼續スル場合ニハ帝國
政府トシテハ武装軍隊滿洲ニ出入スルコトヲ阻止スル爲適當ニシ
テ且ツ有效ナル措置ヲ執ラサルヲ得サルコトアルヘシ形勢ノ赴ク
所已ムヲ得ス右ノ如キ措置ニ出ツルコトアル場合ト雖帝國政府ハ
南北交戦者ノ何レニ對シテモ何等偏頗ナル意思ヲ有セス最モ公平
ナル態度ヲ持スヘキハ固ヨリ言ヲ俟タサルカ故ニ武装軍隊ノ滿洲
出入ヲ阻止スル時期ト方法ノ如キモ兩者ニ對シ何等不公平ナル結
果ヲ生スルニ至ラサルコトニ周到ノ注意ヲ拂フノ用意有ルコトヲ

(赤
梓
紙)

S

161531

0003

極秘

二八(赤梓紙)

滿洲ヲシテ内外人安住ノ地タラシメ一般ノ利益ノ爲ニ其ノ經濟資源
ノ開發ニ協力スルコトハ同地方ニ特殊ノ利害關係ヲ有スル帝國既定
ノ方針ニシテ從テ其ノ治安維持ハ帝國ノ最モ重視スル所ナルカ故ニ
苟モ同地方ノ治安ヲ紊シ若クハ之ヲ紊スノ原因ヲ爲スカ如キ事態ノ
發生ハ帝國政府ノ極力阻止セムトスル所ナリ
戰亂京津地方ニ波及シタル以後ニ於テ武裝セル軍隊ノ滿洲ニ出入ス
ルコトハ其ノ南北何レノ部隊ニ屬スルヲ問ハズ同地方ノ治安ヲ紊ス
ノ因ヲ爲スモノナルヲ以テ若シ不幸ニシテ南北兩軍京津地方ニ於テ
相接觸スルカ如キ事態ヲ生スルニ於テハ帝國政府トシテハ武裝軍隊

外務省

S 161531

0005

(赤梓紙)

ノ滿洲ニ出入スルコトヲ阻止スル爲適當ニシテ且有效ナル措置ヲ執
ラサルヲ得サルコトアル可シ形勢ノ赴ク所已ムヲ得ス右ノ如キ措置
ニ出ツルコトアル場合ト雖モ帝國政府ハ南北交戦者ノ何レニ對シテ
モ何等偏頗ナル意思ヲ有セス最モ公平ナル態度ヲ持スヘキハ固ヨリ
言ヲ俟タサルカ故ニ武裝軍隊ノ滿洲出入ヲ阻止スル時期ト方法ノ如
キモ兩者ニ對シ何等不公平ナル結果ヲ生スルニ至ラサルコトニ周到
ノ注意ヲ拂フノ用意アルコトヲ確言ス

外務省

S 161531 0006

極秘

「去年革命以來年々困難スルコト十有七年其ノ間支那ニ於テハ南北ノ
抗爭ニ加アルニ軍閥相互ノ争鬪各地ニ相次ギテ支那ニ於テハ
孤獨ニ立テ居リ日本ニ對シテ多キヲ望ムルコトヲ大膽ニ欲ス秩序混亂
小陣戰ヲ横行シテ支那ノ未年ニ軍閥ノ軍費抽出ハ苛酷極
キ年々夏ニ支那ノ戦亂ノ結果
支那ノ不安ト困難トニ陥リ支那在留外國人亦安ンレ難業ニ從フニ由
無シ狀況^{ナリ}知ルルヲ以テ戰亂カ一日ニ速ニ終結シ統一セル和平ノ
支那ヲ見ルニ至ラムコトハ外交人ノ均シク熱望スルトコロニシテ
又支那ノ隣邦トシテ利害關係特ニ深キ帝國ノ期望シテ持カサル所

三、四、二人 (赤 梓 紙)

外 務 省

S 161531 0007

(赤 梓 紙)

ナリ
今ヤ山東方面戰況ノ趨向ニ伴ヒ動亂京津地方ニ波及セムトスルニ
當リ茲ニ一般ノ均シク抱懷スル熱烈ナル和平ノ希望ヲ表明スルハ
帝國政府ノ實務ナルヲ信スルト共ニ若シ之レヲ機會トシテ南北交
戰者カ世界ノ趨勢ト支那ノ民意トニ適應シタル條件ヲ以テ速ニ和
平ノ商議ニ入ルニ於テハ帝國政府ノ本懷之レニ過クル無キナリ
滿洲ヲシテ内外人安住ノ地タラシメ一般ノ利益ノ爲メニ其ノ經濟
資源ノ開發ニ協力スルコトハ同地方ニ特殊ノ利害關係ヲ有スル帝
國既定ノ方針ニシテ從テ其ノ治安維持ハ帝國ノ最も重視スル所ナ
ルカ故ニ苟クモ同地方ノ治安ヲ紊レ若クハ之レヲ紊ヌノ原因ヲ爲
スカ如キ事變ノ發生ハ帝國政府ノ極力阻止セムトスル所ナリ

外 務 省

S 161531 0008

外務省

確言ス

(赤・梓紙)

S 161531

0010

外務省

(赤・梓紙)

S 161531

0009

歐戰京津地方ニ波及シタル以後ニ於テ武裝セル軍隊ノ滿洲ニ出入
 スルコトハ其ノ南北何レノ部隊ニ屬スルヲ問ハス則チ地方ノ治安ヲ
 紊スノ因ヲ爲スモノナルヲ以テ若シ不幸ニシテ南北兩交戦者ノ事
 情カ和平ノ商榷ニ入ルヲ許サスレバ戰爭ヲ繼續スル場合ニハ帝國
 政府トシテハ武裝軍隊滿洲ニ出入スルコトヲ阻止スル爲メ適當ニシ
 テ且ツ有效ナル措置ヲ執ラサルヲ得サルコトアルヘシ形勢ノ赴ク
 所已ムヲ得ヌ右ノ如キ措置ニ出ツルコトアル場合ト雖帝國政府ハ
 南北交戦者ノ何レニ對シテモ何等關係ナシ然レモ有セヌ最モ公平
 ナル態度ヲ持スヘキハ固ヨリ言フ俟タサルカ所ニ武裝軍隊ノ滿洲
 出入ヲ阻止スル時期ト方法ノ如キモ兩者ニ對シテ何等不公平ナル結
 果ヲ生スルニ至ラサルコトニ固チ注意ヲ拂フノ用意有ルコトヲ

極秘

(分類) 11.5.1-2-6

記録件名

(赤枠紙)

對時局策見

滿洲ノ治安維持ハ日本ノ最モ重利スルトコトナルガ故ニ此目的ヲ達
スル爲メ必要巴ムヲ察サレハ假令結果ニ於テ一審一罪ニ利スルカ如
キコトトナルモ致方無カルヘキカ如此コトハ出来得ル限リ之レヲ避
クルノ方針ヲ執ルヘキコト勿論ナリ

南軍京津地方ニ進出スル場合無作無及滿洲軍ノ進退ニ關聯シ日本ト
シテ極メテ機微ナル立場ニ立ツハ想像ニ難カラサルカ種々ノ場合ヲ
想像スルニ

一 滿洲軍カ南軍ノ京津地方ニ到ラサルニ先チ形勢非ナリト見テ軍ヲ
滿洲ニ返ヘヌ場合

一 南北兩軍京津地方ニ於テ接觸シ北軍不利ノ狀況ニ於テ滿洲ニ退却

外務省

S 161531

0011

スル場合

一 滿洲河若ハ山海關ニ於テ兩軍對峙スル場合

然ルニ第一ノ場合ハ何等之レヲ拒ムヘキ理由無し

第二ノ場合ハ之レヲ許スニ於テハ滿洲ノ秩序ハ亂サルヘキヲ以テ滿
洲駐屯軍ヲ滿鐵以西兵要ノ地點ニ派出シ南北兩軍ノ滿洲進入ヲ阻止
スルコト必要ナルヘシ

第三ノ場合滿洲河若ハ山海關方面ニ於ケル戰爭ハ之ヲ阻止スル要無カ
ルヘキモ其ノ敗兵モ戰勝兵モ滿鐵沿線附近ニ進入スルヲ許ササルコ
ト第二ノ場合ト同シカラレムル要アリ

然レトモ右ノ如キ事態ノ發生ニ放任スルコトハ日本トシテ得策ナラ
サルカ故ニ適當ノ機會ニ於テ兩軍ニ對シ和平ヲ勸告スルコト然ルヘ

(赤枠紙)

外務省

S 161531 0012

(赤
梓
紙)

レ尤モ此和平ノ勸告ハ滿洲ノ秩序維持乃至支那和平統一ノ見地ニ由
ルモノナルカ故ニ北方援助ト見做サルル時機方法ニ於テ之レヲ行フ
コトハ嚴ニ避ケサルヘカラス

今和平勸告ノ時機ヲ考フルニ東洋ニ戰亂ノ及ハサル以前ニ於テスル
コト必要ニシテ且ツ條件ヲ探知タルノ結果ニ照ラサル爲メ和平提議
ニ關スル日本側ノ唯一ノ條件トシテ無條件ノ地位ヲ明示スルヲ要ス
即チ濟南附帯シテ南軍北進ノ徵有ルニ於テハ日本ハ滿洲權セズ聲明
書ヲ發シ該聲明書中ニ於テ滿洲治安維持ノ見地ヨリ前記第一乃至第
三ノ聯合ニ日本トシテハ新タ新タノ態度ヲ執ルヘキコトヲ明カニス
ルト同時ニ今ヤ南北和平ノ行機ナルカ故ニ無條件ノ地位ヲ條件トシ
テ南北優待ノ附帶ニスラムコトヲ希望スル旨附言ニ由入ルルコトト

外
務
省

S 161531 0013

(赤
梓
紙)

スヘシ

外
務
省

S 161531 0014

極秘

本年ニ至ル支那戦亂ノ結果一般國民ノ生活ハ極度ノ不安ト圖畫ト
ニ臨リ支那在留外國人亦屬ニ安シキニ處ニ從フニ由無キ狀況ニ有ル
ヲ以テ戦亂カ一日モ延ニ終結シ統一セル和平ノ支那ヲ見ルニ更ラ
ムコトハ外交人ノ均シク熱望スルトコロニシテ支那支那ノ隣邦トシ
テ利害關係特ニ深キ帝國ノ懸望シテ精カサル所ナリ
今ヤ動亂京津地方ニ波及セムトスルニ當リ茲ニ一般ノ均シク抱懷
スル熱烈ナル和平ノ希望ヲ表明スルハ帝國政府ノ責務ナルヲ信ス
ルト共ニ若シ之レヲ機會トシテ南北交戦者カ世界ノ趨勢ト支那ノ
民意トニ適應シタル條件ヲ以テ速ニ和平ノ商議ニ入ルニ於テハ帝
國政府ノ本懐之レニ通タル無キナリ
一 滿洲ノ治安維持ハ帝國ノ最も重視スル所ニシテ苟クモ同地方ノ治

三ノ五ノ十 (赤 梓 紙)

外務省

S 161531

0015

(赤 梓 紙)

安ヲ漸シ若クハ之レヲ漸スノ原因ヲ當カ加キ事變ノ發生ハ帝國
政府ノ極力阻止セムトスル所ナリ
戦亂京津地方ニ波及シタル以後ニ於テ武裝セル軍隊ノ滿洲ニ出入
スルコトハ其ノ南北何レノ部隊ニ屬スルヲ問ハス同地方ノ治安ヲ
漸スノ因ヲ爲スモノナルヲ以テ若シ不幸ニシテ和平ノ商議ニ入ル
ヲ許ササル事情ノ爲メニ戰爭繼續セラレ戦亂京津地方ニ進展シ其
ノ禍亂滿洲ニ及ハントスル場合ニハ帝國政府トシテハ滿洲治安維
持ノ爲メ適當ニシテ且ツ有效ナル措置ヲ執ラサルヲ得サルコトア
ルヘシ然レトモ交戦者ニ對シ嚴正中立ノ態度ヲ持スヘキ帝國政府
ノ方針ニ至ツテハ固ヨリ何等變致無キ次第ナルカ故ニ右ノ如キ措
置ニ處ツル場合ニ於テモ其ノ時機ト方法トニツキテハ兩者ニ對シ

外務省

S 161531

0016

極秘

「本年ニ亘ル支那戦亂ノ結果一般國民ノ生活ハ極度ノ不安ト困憊ト
ニ陥リ支那在留外國人亦居ニ安ンシ業ニ從フニ由無キ狀況ニ有ル
ヲ以テ戦亂カ一日モ速ニ終熄シ統一セル和平ノ支那ヲ見ルニ至ラ
ムコトハ外交人ノ均シク熱望スルトコロニシテ又支那ノ隣邦トシ
テ利害關係特ニ深キ帝國ノ望シテ措カサル所ナリ
今ヤ動亂京津地方ニ波及セムトスルニ當リ茲ニ一般ノ均シク抱懐
スル熱烈ナル和平ノ希望ヲ表明スルハ帝國政府ノ責務ナルヲ信ス
ルト共ニ若シ之レヲ機會トシテ南北交戦者カ世界ノ趨勢ト支那ノ
民意トニ適應シタル條件ヲ以テ速ニ和平ノ商議ニ入ルニ於テハ帝
國政府ノ本懐之レニ過クル無キナリ
一滿洲ノ治安維持ハ帝國ノ最モ重視スル所ニシテ苟クモ同地方ノ治

外務省

S 161531

0018

三五、一五 (赤 梓 紙)

何等不公平ナル結果ヲ生スルニ至ラサル極度ノ注意ヲ拂フノ用
意有ルコトヲ留意ス

(赤 梓 紙)

外務省

S 161531

0017

(赤 梓 紙)

安ヲ素シ若クハ之レヲ素スノ原因ヲ爲スカ加キ事端ノ發生ハ帝國
政府ノ極力阻止セムトスル所ナリ
戰亂京津地方ニ波及シタル以後ニ於テ武装セル軍隊ノ滿洲ニ出入
スルコトハ其ノ南北何レノ部隊ニ屬スルヲ問ハス同地方ノ治安ヲ
素スノ因ヲ爲スモノナルヲ以テ若シ不幸ニシテ和平ノ商議ニ入ル
ヲ許ササル事情ノ爲メニ戰爭繼續セラレ戰亂京津地方ニ進展シ其
ノ禍亂滿洲ニ及ハントスル場合ニハ帝國政府トシテハ滿洲治安維
持ノ爲メ適當ニシテ且ツ有效ナル措置ヲ執ラサルヲ得サルコトア
ルヘシ然レトモ交戰者ニ對シ嚴正中立ノ態度ヲ持スヘキ帝國政府
ノ方針ニ至ツテハ固ヨリ何等變改無キ次第ナルカ故ニ右ノ如キ措
置ニ出ツル場合ニ於テモ其ノ時機ト方法トニツキテハ兩者ニ對シ

外 務 省

S 161531

0019

(赤 梓 紙)

何等不公平ナル結果ヲ生スルニ至ラサル様周到ノ注意ヲ拂フノ用
意有ルコトヲ確言ス

外 務 省

S 161531

0020

昭和三年五月十五日 閣議

極秘

保存

(昭和三年五月十五日起案)

閣議採用

南北兩軍ニ交附スヘキ覺書案(發表スヘキ分)

一 永年ニ亘ル支那戰亂ノ結果一般國民ノ生活ハ極度ノ不安ト困憊ト
ニ陥リ支那在留外國人亦居ニ安ンシ業ニ從フニ由無キ狀況ニ有ル
ヲ以テ戰亂カ一日モ速ニ終熄シ統一セル和平ノ支那ヲ見ルニ至ラ
ムコトハ外支人ノ均シク熱望スルトコロニシテ支那ノ隣邦トシ
テ利害關係特ニ深キ帝國ノ翹望シテ措カサル所ナリ
今ヤ動亂京津地方ニ波及セムトスルニ當リ茲ニ一般ノ均シク抱懷
スル熱烈ナル和平ノ希望ヲ表明スルハ帝國政府ノ責務ナルヲ信ス

外務省

S 161531

0021

ルト共ニ若シ之レヲ機會トシテ南北交戰者カ世界ノ趨勢ト支那ノ
民意トニ適應シタル條件ヲ以テ速ニ和平ノ商議ニ入ルニ於テハ帝
國政府ノ本懷之レニ過クル無キナリ

一 滿洲ノ治安維持ハ帝國ノ最モ重視スル所ニシテ苟クモ同地方ノ治
安ヲ紊シ若クハ之レヲ紊スノ原因ヲ爲スカ如キ事態ノ發生ハ帝國
政府ノ極力阻止セムトスル所ナリ

一 戰亂京津地方ニ波及シタル以後ニ於テ武装セル軍隊ノ滿洲ニ出入
スルコトハ其ノ南北何レノ部隊ニ屬スルヲ問ハス同地方ノ治安ヲ
紊スノ因ヲ爲スモノナルヲ以テ若シ不幸ニシテ和平ノ商議ニ入ル
ヲ許ササル事情ノ爲メニ戰爭繼續セラレ戰亂京津地方ニ進展シ其
ノ禍亂滿洲ニ及ハムトスル場合ニハ帝國政府トシテハ滿洲治安維

外務省

S 161531

0022

極秘

持ノ爲メ適當ニシテ且ツ有效ナル措置ヲ執ラサルヲ得サルコトアルヘシ然レトモ交戦者ニ對シ嚴正中立ノ態度ヲ持スヘキ帝國政府ノ方針ニ至ツテハ固ヨリ何等變改無キ次第ナルカ故ニ右ノ如キ措置ニ出ツル場合ニ於テモ其ノ時機ト方法トニツキテハ兩者ニ對シ何等不公平ナル結果ヲ生スルニ至ラサル様周到ノ注意ヲ拂フノ用意有ルコトヲ確言ス

外務省

S 161531 0023

(昭和三年五月十六日起案)

措置案 (發表セサル案)

- 一 最近ノ機會ニ北方ハ張作霖及南方ハ蔣介石等ニ外交機關ヲ通シテ別案覺書ヲ交付スルコト
- 二 右覺書交付ニ當リテハ和平ニ對スル希望ヲ略説スルト同時ニ戰亂一旦京津方面ニ進展シタル以後ニ於テハ南北何レノ部隊タルヲ問ハス武裝軍隊ノ滿洲ニ出入スルコトヲ阻止スヘキ決心ナルコトヲ明瞭ニ説明スルコト
- 三 右ノ外張作霖ニ對シテハ同時若ハ交付直後最近ノ機會ニ非公式ニ

外務省

S 161531 0024

分 類 小. 6. 1. 1. 1-2-4



陸軍兩當局ニ於テ熟議ヲ遂ケタル結果白川關東司令官ヲシテ滿洲ニ
 スルヤ歐聯滿洲ニ及フノ虞アルニ至リタルニ付帝國政府ハ豫メ外務
 部松本、張作霖ニ背反シ十一月五日遼山地地方ニ於テ張作霖軍ヲ大破
 不干涉方針ヲ恪守シテ激ラサルモノナル處十月下旬瀋州ニ在リタル
 動亂ヲ誘發スルニ至レルカ帝國政府ハ右支那ノ内亂ニ對シ絕對内政
 民國十四年十月中旬浙江督辦孫傳芳ノ對奉開戦ハ延イテ遂ニ北支大

(一)關東軍司令官ノ報告

大正十四年秋冬動亂ニ對スル帝國政府ノ態度
 (大正十四年十二月調)

外
務
省

S 161531 0026

引退ヲ勸告スルモ若シ右勸告ニ應セサル場合ニハ更ニ對策ヲ講ス
 ルコト
 第一項覺書提出期ハ全般ノ情勢ヨリスレハ今日ヲ以テ既ニ其時期
 ナリト認ム
 北方軍隊ノ關外遁入及南方軍隊ノ追撃阻止又ハ武装解除ハ關東軍
 司令官ニ於テ北支駐屯軍ト協力シ適宜處置ス

外
務
省

S 161531 0025

於ケル帝國ノ權利利益保護ノ爲メ軍當然ノ職責ニ基キ、郭兩軍司令官ニ對シ左記ノ通り警告セシムルコトニ決シ右ノ次第十二月七日陸軍ヨリ同司令官ニ電報スルト共ニ同月八日東京ニ於テ之ヲ公表セ

關東軍司令官警告文(十二月八日附)

本司令官ハ帝國政府ノ方針ヲ體シ隣邦ノ動亂ニ當リテ常ニ絕對不干渉ノ態度ヲ嚴守シ斷シテ支那國內一黨一派ノ興廢ニ干與スルノ意ナキハ之ヲ宣明スルノ要ナレ然リト雖滿洲ニ於テ數十萬ノ帝國臣民居住シテ各般ノ平和的事業ヲ經營シ日本ノ投資亦巨額ニ上リ帝國ノ同地方ニ於ケル權利利益頗ル重大ナルモノアリ從テ鐵道附屬地帯即チ我軍守備區域内ハ勿論其ノ附近ニ於ケル

(赤 梓 紙)

外 務 省

S 161531

0027

(赤 梓 紙)

戰亂並騷亂ノ爲此ノ重大ナル帝國ノ權利利益ヲ嚴損シ或ハ危害ヲ及ホスノ虞アルニ於テハ軍ノ職責上默視シ得サル所ニシテ目下對戰中ノ兩軍ニ於テモ帝國ノ此ノ特殊ノ地位ヲ尊重セラルヘキヲ願ス若シ不幸ニシテ如上ノ危險切迫スル場合ニ於テ本司令官ハ當然ノ必要ノ措置ヲ執ラサルヲ得ス今ヤ兩軍ノ戰鬪或ハ我守備區域ノ附近ニ及ハントスルノ形勢ニ鑑ミ對戰中ノ兩軍司令官ニ對シ茲ニ豫メ前記ノ點ニ付注意ヲ喚起シ置クハ喫緊ノ要務ナリト願ス

白川關東軍司令官ハ十二月九日在奉天陸軍特務機關菊地少將ヲシテ張作霖ニ又浦關東參謀ヲシテ錦州ニ赴キ十二月十日郭松齡ニ右警告文ヲ手交セシメタル處張及郭ハ夫々左記回答ヲナセリ

外 務 省

S 161531

0028

(赤 梓 紙)

張作霖回答 (十二月十日附)

查スルニ此度郭松齡ノ叛亂ハ東三省ヲ擾害シ故ニ貴國居住民ヲシテ同様不安ヲ抱カシメタルハ本上將軍ノ殊ニ深ク遺憾トスル所ナリ惟フニ郭松齡ハ元來奉天省ノ軍隊ナルニ既ニ叛亂ノ事實アリ長官タル者當然討伐處分スルノ權責ヲ有ス況ンヤ郭松齡此大ノ暴動ハ實ニ弊國政治ノ常軌ヲ逸スル意味ヲ含ミ屬リ東三省人民ノ其害毒ヲ受クルノミナラス其影響スル所ハ將ニ全國ニ及ハントス此ノ如キ犯上作亂ノ舉ハ國法ノ容レサル所ナリ豈刑罰ヲ加ヘサルヘケンヤ又奉天ハ本上將軍ノ所在地ニシテ彼來テ擾亂ヲ爲サントス故ニ多クノ防備ヲ設ケ以テ保衛ノ責ヲ盡ササルヲ得ス此點奉天司令官ノ瞭解セラルル所ナルヘシ

外 務 省

S 161531

0029

(赤 梓 紙)

貴國居住民ノ生命財産及貴國ノ利益ハ本上將軍ハ勿論極力尊重スヘク且本部及進軍討伐ノ將卒ニ嚴命シ特別ノ注意ヲナサシム茲ニ回答スル事右ノ如シ

郭松齡回答 (十二月十日附)

奉天省ノ戰爭ノ爲貴國ノ權利利益ニ對シ恐ラクハ損害ヲ致サントノ事ニテ弊軍ニ照會シ與フルニ注意ヲ以テセラル松齡再三之ヲ讀ミ極メテ誠意アル御趣旨ニ感佩セリ今同弊軍ハ民意ニ從ヒ平和ヲ維持スル意志ニ基キ部隊ヲ引返シテ東ニ歸ルモノニテ凡テ經過セル地方ニ於ケル外國居住民ノ生命財産及條約上ノ權利利益ニ對シテハ極力尊重シテ保護ヲ加ヘ亦屢々北京ニ駐在スル貴國勞澤公使並ニ各國公使ニモ通告シタリ之ニ來警ヲ奉シ特ニ

外 務 省

S 161531

0030

再々鄭重ニ聲明セン東三省ニ在留スル貴國人民ノ生命財産ハ弊
軍ノ勢力範圍内ニ於テハ當然極力其安全ヲ保證シ南滿鐵道附屬
地帯ニハ決シテ戰鬪ナレ故ニ有ラユル貴國條約上ノ權利利益ハ
自ラ損害ヲ受クル虞レナレ只軍事ノ相手方ニ於テ弊軍平和ノ趣
旨ニ反抗スル爲手段ヲ選ハサルヲ恐ル亦其ノ南滿鐵道沿線及旅
順大連ノ租借地ニ逃ケ込ミシ者カ更ニ陰謀破壞ノ舉動アルヲ虞
ル希クハ貴司令官ニ於テ隨時特ニ注意ヲ加ヘラレタシ松齡ハ平
素ヨリ國際上ノ信義道德ヲ重シ最モ日支兩國ノ親善ヲ貫徹セ
ント欲スルモノナレハ此ノ機會ニ於テ衷情ヲ文達シ得ルハ極メ
テ光榮トスル所ナリ諸事觀察ヲ請フ儀ヲ回答ス

第二四回答(十二月十一日附)

(赤梓紙)

外務省

S 161531 0031

再信通ニ奉答セル如ク南滿鐵道附屬地帯ニ於テハ決シテ戰鬪
ナレトハ既ニ上述ノ如クナルカ之ニ條約ヲ尊重シ及ヒ行動ヲ慎
重ニスル見地ヨリ

一貴司令官ニ於テ鐵道附屬地帯ノ警備範圍及其ノ根據トスル所
ノ條約文句ヲ明白ニ示サレ以テ交渉ニ費セラレンコトヲ乞フ
之レ貴國ノ中立ニ侵害ヲ及ホヌヲ免レンカ爲ナリ

一風聞ニ依レハ軍事ノ相手方ニハ貴國人民ニシテ中國ノ武裝ヲ
着ケテ戰鬪ニ參加スルモノアリト此ノ件ハ自然未タ確信スル
能ハサルモ但シ万一ニモ此ノ事實アラハ弊軍ノ對敵行動中其
ノ區別ヲナシ加フルニ保護ヲ以テスルハ困難ナレハ諒想サレ
ンコトヲ祈ル

(赤梓紙)

外務省

S 161531 0032

（赤 梓 紙）
一、現ニ軍事ノ相手方ハ依然新民屯居留地一帯ニ於テ抵抗ニ從事
シツツアリ將軍ハ近ク前進シテ討伐ヲ加ヘントス之レ誠ニ已
ムヲ得サル所ナリ

右併セテ文達シ再ヒ自川司令官閣下ニ本書ヲ呈ス

（二）吉田總領事ノ奉郭兩軍間和平解決轉旋

一方王奉天電長ハ十二月五日吉田總領事ヲ來訪シ張作霖軍連山附近
敗戦ノ結果自然奉天地方治安擾亂ノ虞アル趣ヲ以テ同總領事ノ意見
ヲ求メタルカ右ニ對シ同總領事ハ奉天地方ヲ兵火ノ慘害ヨリ免レシ
ムル爲張郭兩軍ノ間ニ於テ平和的ニ時局收拾ノ策ヲ圖クスコト可ナ
ルヘシト告ケタルニ同電長ハ橋宇雲ト協議スヘキ旨ヲ述ヘ引取りタ
ルカ次テ電長ヨリ張作霖ニ下野ノ意アル趣ヲ以テ張郭兩軍ノ和平解

外 務 省

S 161531

0033

（赤 梓 紙）
決闘停依願モアリ吉田總領事ハ不取敢免ニ角郭側トノ聯絡ヲ付クル
コトノ急務ナルヲ認メ十二月六日内山領事ヲ郭軍ニ向テ派遣セリ（内
山領事ハ鐵道故障ノ爲メ同軍ニ到達セザル）依テ帝國政府ハ十二月七
日關東軍司令官ニ對シ前記警告方訓令スルト共ニ同日張、郭兩將ニ
對シ兩軍ニ於テ希望セラルルニ於テハ帝國政府ハ兩者ノ間ニ立テ斡
旋（調停）ニ非ス一ノ勞ヲ辭セストノ趣旨申入方テ電訓セリ
然ルニ其ノ後奉天側ニテ再ヒ強硬論トナリタルモノノ如クナリシニ
付七日夜更メテ吉田總領事ヨリ王省長ニ就キ張作霖決意ノ程ヲ確メ
タル處八日朝同省長ヨリ張ノ意思全ク主戰論ニ變レ下野ノ意ナキニ
到レル旨回答シ來レルニ依リ吉田總領事ハ前記訓令執行ノ時機ニ到
達セサルモノト認メタルモ見ユ角郭公式ニ郭軍トノ聯絡保持ノ爲メ

外 務 省

S 161531

0034

7

郭ト特別ノ關係アル醫師守田福松ヲ郭ノ許ニ派遣セリ

⑤ 關東軍司令官ノ戰局禁止區域通告

然ルニ其後張郭兩軍關係益々切迫セルニ鑑ミ外務、陸軍兩當局協議ノ上十二月十四日陸軍ヨリ關東軍司令官ニ對シ左記ノ趣旨ヲ張郭兩軍ニ對シ通告方電報シ同司令官ハ十五日附テ以テ右通告ヲ了セリ

本司令官ハ帝國政府ノ方針ヲ體シ茲ニ關東軍司令官ニ對シ警告スルノ光榮ヲ有ス日本軍ハ南滿鐵道附屬地兩側及該鐵道終末點ヨリ着彈距離(約二十支星)以内ニ於テ直接戰鬪動作ハ勿論我カ附屬地ノ治安ヲ亂ス虞アル軍事行動ハ之ヲ禁止ス爾後本通告ニ對スル交渉アラハ貴國政府ヲ經テ正式ニ交渉セラルヘシ

⑥ 滿洲駐劄軍補充派兵

(赤 梓 紙)

外 務 省

S 161531 0035

(赤 梓 紙)

外 務 省

我滿洲國軍ハ大正十四年十一月月中旬二年兵隊除隊歸休シ之カ補充ヲ要スル狀態ニ在リタルモ當時各方面ノ誤解ヲ避ケタル爲之ヲ盡力ヘ居リタル處前記ノ如ク事態切迫セルニ付十二月十五日ノ閣議ニ於テ意旨右補充派兵ノコトニ決シ朝鮮軍ヨリ歩兵二大隊野砲二中隊第十二師團ヨリ混成一旅團(歩兵四大隊騎兵野砲山砲各一中隊)及近衛師團ヨリ無線電信一隊派遣方即日發令相成ルト共ニ同日夕左記公表文ヲ發表セリ

滿洲ニ於ケル騷亂ニ關シ我駐滿軍ハ絕對不干渉ノ態度ヲ嚴守シ專ラ帝國臣民保護帝國ノ權利利益擁護ノ爲警備上最善ノ努力ヲ盡シ來レル處最近我警備區域ニ接近セル地方ニ於テ對戰兩軍決戰ノ機切迫シ且其騷擾營口ヨリ以北奉天鐵道ノ一帶廣大ノ地域

S 161531 0036

ニ亘ルノ形勢トナリ蓋ニ我軍司令官ハ帝國特殊ノ地位尊重ニ付
兩軍ニ警告ヲ發シ兩者去ニ之ヲ撤収セリト雖一旦急迫ノ事起
ラハ或ハ果テ鉄道附屬地全部ニ及ホシ秩序紊亂ノ危虞ナシトセ
ス然ルニ十一月中旬我守備軍兵員中二年兵ハ除隊歸休トナリ爾
來其ノ補充未了ノ狀態ニ在リ從テ前記ノ切迫セル危虞ニ備ヘ廣
キ區域ノ警備ニ萬全ヲ期スル爲急遽右兵員補充ノ要切ナルモノ
アリ仍テ不取敢滿洲ニ近接シ派兵ニ便ナル朝鮮ヨリ一部隊(約
一千名)ヲ應急補充スルト同時ニ内地部隊(約二千五百名)ヲ
以テ缺員填補ノ方法ヲ講スルコトトシ該部隊滿洲到着ト去ニ朝
鮮ヨリノ補充部隊ハ適宜原駐地ニ復歸セシムヘシ

(赤
梓
紙)

外
務
省

S 161531

0037

(赤
梓
紙)

第
九

大正十三年奉直戰爭ノ際ニ於ケル滿蒙特殊權
益保全問題

大正十三年支那戰局擴大シ奉直兩軍對戰スルヤ十月十三日帝國政
府ハ在北京帝國公使及在奉天帝國總領事ヲシテ北京政府及奉天官
憲ニ對シ夫々左記覺書ヲ交付セシメタリ
帝國政府ハ今回不幸ニシテ勃發セル支那國內ノ爭亂ニ對シテハ
絶エス嚴正不干涉ノ態度ヲ執リ來レリ戰端ノ開始セラレタル原
因ノ如何ヲ問ハス現ニ對抗スル兩軍共ニ等シク支那國民ノ一部
ヲ爲スモノニシテ日本ノ支那國民ニ對スルヤ偏ニ友好善隣ノ關
係ヲ増進セムトスルノ外何等他意アルコトナレ

外
務
省

S 161531

0038

(赤 梓 紙)

之ト同時ニ滿蒙地方ニ於テハ帝國臣民ノ居住スルモノ實ニ數十
萬ニ上リ日本ノ投資及企業權ノテ莫大ナルモノアリ殊ニ帝國自
身ノ康寧盛リテ同地方ノ治安秩序ニ存スル所本願ル多シ帝國政
府ハ毫モ支那ノ内争ニ干渉セムトスルカ如キ趣旨ニ基カスレテ
茲ニ兩軍ニ對シ以上ノ明瞭ナル事實ニ付嚴肅ナル注意ヲ喚起シ
且斯ノ如ク緊切ナル日本ノ權利利益ハ十分尊重保全セラルヘキ
コトヲ最モ重要視スルノ意ヲ表明ス
右ニ對シ北京政府及奉天官憲ハ夫々左記覚書ノ通り回答セリ

(1) 奉天官憲回答十月十四日

東三省ハ前年以來唯々保護安民ヲ以テ職志ト爲シ内ニ對シテハ
意ヲ自治ニ注キ民生ノ休養ニ努メ外ニ對シテハ邦交ヲ鞏固ニシ

外 務 省

S

161531

0039

(赤 梓 紙)

又商務ヲ推廣セリ此レ各友邦ノ均シク知悉セラルル所ニシテ敢
テ贅述ヲ要セサルナリ此ノ時期ニ當リ如何ニセハ保護安民ノ目
的ヲ貫徹シ得ヘキカ勢ヒ適當ノ措置ヲ採ラサルヲ得サルナリ幸
ニ我カ明達ノ友邦ハ此點ニ對シ既ニ諒解セラルル所アリ誠ニ感
佩ニ堪ヘス從來東三省在留各國商人ノ生命財產ノ保護ニ任スル
コト既ニ多年今尙終始不易ノ決心ヲ持シ外商ニ對シテハ斷シテ
意外ノ事件ヲ發生セシメサルヘキハ盡ニ發表セル宣言中ニ於テ
詳細聲明シタル所ナリ

貴國ノ東三省ニ於ケル在留民ノ多キ投資及企業ノ大ナル實ニ他
國ノ及ハサル所其ノ關係ノ密接ナルハ言テ俟タサル所ナリ今後
東三省在留ノ貴國商民ニ對シテハ權力ノ及フ限リ特ニ其ノ生命

外 務 省

S

161531

0040

財産ヲ尊重シ努メテ居住業務ノ安全ヲ期シ以テ中國國民ト與ニ
日ニ和平友愛ノ途ニ邁カシメントス微衷ノ存スル所重ネテ誠心
ヲ以テ披瀝シ且ツ貴國ノ嚴正不干涉ノ厚意ヲ謝ス

(四)北京政府回答十月十九日

本月十三日芳澤公使ノ手交セル覺書ニ記述セラレタル各節ヲ聞
悉セリ查スルニ今回軍事ノ發生セルハ盧永祥、張作霖等中央ニ
叛抗シ兵ヲ稱へ擧テ起シタルニ依リ政府ハ亂源ヲ肅清シ統一ヲ
促進センカ爲ニ止ムヲ得ス兵ヲ用ヒ討伐スルモノニシテ固ヨリ
名正レク言順ナリ彼等ハ國民ノ憎惡スル所ニシテ當然國軍ト同
一ニ論スル能ハス貴國政府ノ聲明セラレタル嚴正不干涉ノ態度
ニ對シテハ本國政府ノ最モ重要視スル所ナリ中國在留友邦國人

(赤 粹 紙)

外 務 省

S 161531 0041

ノ生命財産ノ安全及條約上享有スヘキ權利々益ニ對シテハ本國
政府ニ於テ極力保護尊重スヘキコトハ既ニ屢々聲明シ且大總統
ノ命ニ依リ國軍ニ令達遵照セシメ居ルカ故ニ凡ソ國軍ノ通過地
方ニ於テ斷シテ騷擾セシムルコトナカルヘシ
貴國人ノ中國ニ在留スル者ハ其ノ數多ク商業ノ鉅大ナルコトハ
本國政府ノ從來重要視スル所ニシテ今回兵ヲ用ユルニ當リテハ
國軍ノ通通用兵ノ區域タルト本國其他ノ各所ニ於ケルトニ論ナ
ク從來ノ教好睦隣ノ趣旨ニ基キ極力保護ニ任シ何等ノ損害ヲ受
ケサラシムルコトヲ望ミ居レリ今次用兵地區附近一帶ノ地方ニ
於ケル治安秩序ニ付テハ本國政府及派遣軍當局者ノ最モ重視ス
ル所ニシテ亦必ス其維持ニ盡カスヘキニ依リ一面ニ於テハ貴國

(赤 粹 紙)

外 務 省

S 161531 0042

政府ニ於テモ該地域ニ在留スル貴國人民ニ對シ嚴重誠告セラレ
善ク自ラ慎重ナラシムルヲ得ハ裨益スル所蓋シ鮮キニ非ルヘシ

(赤 梓 紙)

外 務 省

S 161531 0043

REEL No. A-0782

アジア歴史資料センター

抄筆統一
付送付済
秘書省
海軍
送付済

信寫

昭和3 五七一六 暗

北京 本省

五月十五日前着

亞

田中外務大臣

第六三一號

芳澤公使

往電第六〇三號ニ關シ

十二日外交部沈秘書ヨリ天羽ニ對シ電話ニテ今般大元帥ハ和平統一ノ目的ヲ以テ停戰命令ヲ出シタルカ(後程右原文及英譯文送付シ越セリ)日本モ豫テ支那ノ和平統一ヲ希望セル事實ニ鑑ミ右目的達成ノ爲此ノ際日本及各國ノ援助ヲ得度右大元帥ヨリ外交總長ニ命令アリ總長ノ命ニ基キ當國公使ニ傳ヘラレ度シト通シ來リタルニ付天羽ハ公使ニモ御傳ヘ致スヘキカ右援助ノ結果ハ内政干涉

トナラサルヤト質シタルニ單ニ「モラルサポート」ノ意味ニ過キスト答ヘ次テ各國公使館ニ對シ同様ノ申出ヲ爲スモノナリヤト問ヘルニ然リト答ヘタル趣ナルカ其ノ後北京俱樂部ニ於テ天羽カ英米其ノ他各國公使館員ニ行合ヒタル際ノ聞込ニ依レハ同日外交部員カ右同様ノ趣旨ヲ以テ各國公使館ヲ屢訪シタル趣ナリ奉天、青島、上海、漢口、南京、濟南ニ轉電シ天ニ暗送セリ

北支

S 161531 0045

S 161531 0044

REEL No. A-0782

胡

Handwritten notes in Japanese, including "(巴城の...)" and "2019-10-10".

極秘

(昭和三年五月十六日起案)

(赤神紙)

措置案 (發表セサル案)

最近ノ機會ニ北方ハ張作霖及南方ハ蔣介石等ニ外交機關ヲ通シテ別案覺書ヲ交付スルコト

ニ右覺書交付ニ當リテハ和平ニ對スル希望ヲ略説スルト同時ニ戰亂一旦京津方面ニ進展シタル以後ニ於テハ南北何レノ部隊タルヲ問ハス武裝軍隊ノ滿洲ニ出入スルコトヲ阻止スヘキ決心ナルコトヲ明瞭ニ説明スルコト

ニ右ノ外張作霖ニ對シテハ同時若ハ交付直後最近ノ機會ニ非公式ニ

外務省

S

161531

0046

REEL No. A-0782

極秘

割ル

昭和三年五月十一日
閣議ニ於テ使用克主款
(閣議後与長ヲ指受)

(昭和三年五月十六日起案)

(赤
神
紙)

明瞭ニ説明ナラズ
ニ右ノ外張作霖ニ對シテハ同時若ハ交付直後最近ノ機會ニ非公式ニ

外務省

石等ニ外交機關ヲ通シテ
至ラ略説スルト同時ニ戦亂
ハ南北何レノ部隊タルヲ問
阻止スヘキ決心ナルコトヲ

S

161531

0046

REEL No. A-0782

0340

アジア歴史資料センター

極秘

措置案 (發表セザル案)

一 最近ノ機會ニ北方ハ張作霖及南方ハ蔣介石等ニ外交機關ヲ通シテ別案覺書ヲ交付スルコト

一 右覺書交付ニ當リテハ和平ニ對スル希望ヲ略説スルト同時ニ戰亂一旦京津方面ニ進展シタル以後ニ於テハ南北何レノ部隊タルヲ關ハス武裝軍隊ノ滿洲ニ出入スルコトヲ阻止スヘキ決心ナルコトヲ明瞭ニ説明スルコト

(昭和三年五月十六日起案)

(赤 梓 紙)

外務省

S

引退ヲ勸告スルモ若シ右勸告ニ應セサル場合ニハ更ニ對策ヲ講スルコト

四 第一項覺書提出期ハ全般ノ情勢ヨリスレハ今日ヲ以テ既ニ其時期ナリト認ム

五 北方軍隊ノ關外遁入及南方軍隊ノ追撃阻止又ハ武裝解除ハ關東軍司令官ニ於テ北支駐屯軍ト協力シ適宜處置ス

(赤 梓 紙)

外務省

S

161531

0047

極秘

引渡ノ動向ナクモ若シ本動向ニ應ジテハ場合ニ依リテ對策ヲ講ス

第一項覺書提出期ハ全般ノ情勢ヨリスレハ今日ヲ以テ既ニ其時期ナリト認ム

北方軍隊ノ關外運入及南方軍隊ノ追撃阻止又ハ武装解除ハ關東軍司令官ニ於テ北支駐屯軍ト協力シ適宜處置ス

(赤神紙)

外務省

S

(赤神紙)

(昭和三年五月十六日起案)

措置案 (發表セサル案)

最近ノ機會ニ北方ハ張作霖及南方ハ蔣介石等ニ外交機關ヲ通シテ別案覺書ヲ交付スルコト

右覺書交付ニ當リテハ和平ニ對スル希望ヲ略説スルト同時ニ戰亂一旦京津方面ニ進展シタル以後ニ於テハ南北何レノ部隊タルヲ問ハス武装軍隊ノ滿洲ニ出入スルコトヲ阻止スヘキ決心ナルコトヲ明瞭ニ説明スルコト

右ノ外張作霖ニ對シテハ同時若ハ交付直後最近ノ機會ニ非公式ニ

外務省

S

極秘

南北兩軍ニ交^附増スヘキ覺書案(發表スヘキ分)

一 本年ニ亘ル支那戰亂ノ結果一般國民ノ生活ハ極度ノ不安ト困憊ト
 ニ陥リ支那在留外國人亦居ニ安ンシ業ニ從フニ由無キ狀況ニ有ル
 ナリテ戰亂カ一日モ速ニ終熄シ統一セル和平ノ支那ヲ見ルニ至ラ
 ムコトハ外支人ノ均シク熱望スルトコロニシテ^{殊ニ}支那ノ隣邦トシ
 テ利害關係特ニ深キ帝國ノ翹望シテ措カサル所ナリ
 今ヤ動亂京津地方ニ波及セムトスルニ當リ茲ニ一般ノ均シク抱懷
 スル熱烈ナル和平ノ希望ヲ表明スルハ帝國政府ノ責務ナルヲ信ス

(昭和三年五月十五日起案)

(赤 神 紙)

外 務 省

S 161531 0048

引退ヲ勸告スルモ若シ右勸告ニ應セサル場合ニハ更ニ對策ヲ講ス
 ルコト

四 第一項覺書提出期ハ全般ノ情勢ヨリスレハ今日ヲ以テ既ニ其時期
 ナリト認ム

五 北方軍隊ノ關外遁入及南方軍隊ノ追撃阻止又ハ武裝解除ハ關東軍
 司令官ニ於テ北支駐屯軍ト協力シ適宜處置ス

(赤 神 紙)

外 務 省

S

(赤
梓
紙)

ルト共ニ若シ之レヲ機會トシテ南北交戦者カ世界ノ趨勢ト支那ノ
民意トニ適應シタル條件ヲ以テ速ニ和平ノ商議ニ入ルニ於テハ帝
國政府ノ本懐之レニ過タル無キナリ

一 滿洲ノ治安維持ハ帝國ノ最モ重視スル所ニシテ苟クモ同地方ノ治
安ヲ紊シ若クハ之レヲ紊スノ原因ヲ爲スカ如キ事態ノ發生ハ帝國
政府ノ極力阻止セムトスル所ナリ

戦亂京津地方ニ波及シタル以後ニ於テ武装セル軍隊ノ滿洲ニ出入
スルコトハ其ノ南北何レノ部隊ニ屬スルヲ問ハス同地方ノ治安ヲ
紊スノ因ヲ爲スモノナルヲ以テ若シ不幸ニシテ和平ノ商議ニ入ル
ヲ許ササル事情ノ爲メニ戦争繼續セラレ戦亂京津地方ニ進展シ其
ノ禍亂滿洲ニ及ハムトスル場合ニハ帝國政府トシテハ滿洲治安維

外
務
省

S 161531 0049

(赤
梓
紙)

持ノ爲メ適當ニシテ且ツ有效ナル措置ヲ執ラサルヲ得サルコトア
ルヘシ然レトモ交戦者ニ對シ嚴正中立ノ態度ヲ持スヘキ帝國政府
ノ方針ニ至ツテハ固ヨリ何等變改無キ次第ナルカ故ニ右ノ如キ措
置ニ出ツル場合ニ於テモ其ノ時機ト方法トニツキテハ兩者ニ對シ
何等不公平ナル結果ヲ生スルニ至ラサル様周到ノ注意ヲ拂フノ用
意有ルコトヲ確言ス

外
務
省

S 161531 0050

極秘

(昭和三年五月十五日起案)

(赤 押 紙)

南北兩軍ニ交増スヘキ覺書案(發表スヘキ分)

永年ニ亘ル支那戰亂ノ結果一般國民ノ生活ハ極度ノ不安ト困憊トニ陥リ支那在留外國人亦居ニ安ンシ業ニ從フニ由無キ狀況ニ有ルヲ以テ戰亂カ一日モ速ニ終熄シ統一セル和平ノ支那ヲ見ルニ至ラムコトハ外支人ノ均シク熱望スルトコロニシテ支那ノ隣邦トシテ利害關係特ニ深キ帝國ノ翹望シテ措カサル所ナリ
今ヤ動亂京津地方ニ波及セムトスルニ當リ茲ニ一般ノ均シク抱懷スル熱烈ナル和平ノ希望ヲ表明スルハ帝國政府ノ責務ナルヲ信ス

外 務 省

S 161531

0051

(赤 押 紙)

ルト共ニ若シ之レヲ機會トシテ南北交戰者カ世界ノ趨勢ト支那ノ民意トニ適應シタル條件ヲ以テ速ニ和平ノ商議ニ入ルニ於テハ帝國政府ノ本懷之レニ過クル無キナリ

ニ滿洲ノ治安維持ハ帝國ノ最モ重視スル所ニシテ苟クモ同地方ノ治安ヲ紊シ若クハ之レヲ紊スノ原因ヲ爲スカ如キ事態ノ發生ハ帝國政府ノ極力阻止セムトスル所ナリ

戰亂京津地方ニ波及シタル以後ニ於テ武装セル軍隊ノ滿洲ニ出入スルコトハ其ノ南北何レノ部隊ニ屬スルヲ問ハス同地方ノ治安ヲ紊スノ因ヲ爲スモノナルヲ以テ若シ不幸ニシテ和平ノ商議ニ入ルヲ許ササル事情ノ爲メニ戰爭繼續セラレ戰亂京津地方ニ進展シ其ノ禍亂滿洲ニ及ハムトスル場合ニハ帝國政府トシテハ滿洲治安維

外 務 省

S 161531

0052

極秘

持ノ爲メ適當ニシテ且ツ有效ナル措置ヲ執ラサルヲ得サルコトアルヘシ然レトモ交戦者ニ對シ嚴正中立ノ態度ヲ持スヘキ帝國政府ノ方針ニ至ツテハ固ヨリ何等變改無キ次第ナルカ故ニ右ノ如キ措置ニ出ツル場合ニ於テモ其ノ時機ト方法トニツキテハ兩者ニ對シ何等不公平ナル結果ヲ生スルニ至ラサル様周到ノ注意ヲ拂フノ用意有ルコトヲ確言ス

(赤梓紙)

外務省

S 161531 0053

(昭和三年五月十六日起案)

(赤梓紙)

措置案 (發表セサル案)

最近ノ機會ニ北方ハ張作霖及南方ハ蔣介石等ニ外交機關ヲ通シテ別案覺書ヲ交付スルコト
右覺書交付ニ當リテハ和平ニ對スル希望ヲ略説スルト同時ニ戰亂一旦京津方面ニ進展シタル以後ニ於テハ南北何レノ部隊タルヲ問ハス武裝軍隊ノ滿洲ニ出入スルコトヲ阻止スヘキ決心ナルコトヲ明瞭ニ説明スルコト
右ノ外張作霖ニ對シテハ同時若ハ交付直後最近ノ機會ニ非公式ニ

外務省

S 161531 0054

(赤 梓 紙)

引退ヲ勸告スルモ若シ右勸告ニ應セサル場合ニハ更ニ對策ヲ講スルコト

第一項覺書提出期ハ全般ノ情勢ヨリスレハ今日ヲ以テ既ニ其時期ナリト認ム

北方軍隊ノ關外遁入及南方軍隊ノ追撃阻止又ハ武裝解除ハ關東軍司令官ニ於テ北支駐屯軍ト協力シ適宜處置ス

外 務 省

S

161531

0055

(赤 梓 紙)

支那南北兩軍ニ交附スヘキ覺書

(昭和三年五月十六日決定)

本年ニ亘ル支那戦亂ノ結果一般國民ノ生活ハ極度ノ不安ト困窮トニ陥リ支那在留外國人亦居ニ安シシ難ニ從フニ由テキ狀況ニ有ルヲ以テ戦亂カ一日モ延ニ終絶シ統一セル和平ノ支那ヲ見ルニ至ラムコトハ外支人ノ均シク熱望スルトコロニシテ殊ニ支那ノ隣邦トシテ利害關係特ニ緊キ帝國ノ親善シテ措カサル所ナリ然ルニ今ヤ動亂京滬地方ニ波及セムトシ滿洲ノ地モ亦斯ニ其ノ影響ヲ蒙ラムトスルノ虞有ルニ至レル處御モ滿洲ノ治安維持ハ帝國ノ最も重視スル所ニシテ尙モ同地方ノ治安ヲ紊レ若ハ之ヲ紊スノ原因ヲ爲スカ如キ事變ノ發生

外 務 省

S

161531

0056

電送第 3778 號
 3 年 5 月 16 日 3 時 0 分 發

次官 傷

件	張作霖引揚勸告ニ関スル件
宛	在支 芳沢公使
暗	第二〇九號 (大至急、極秘)
内容	貴電ヲ六五〇号末段ニ自シ 一兩日中ニ当方ヨリ訓令ノ次ヲアルニ付 貴官ノ思付トシテ勸告スルコトハ差控置 相成度シ 天津へ轉電アリタシ
主 任	亞細亞局長 (起草 大正 三年 五月 十六日)
主 任	亞細亞局長 第 一 課
名 込 綴	田中大臣

電信課 長澤田

電信案

北支

(原議用紙甲) 國

S 161531 0058

ハ帝國政府ノ極力阻止セムトスル所ナルカ故ニ戰亂京津地方ニ進展
 シ其ノ禍亂滿洲ニ及ハムトスル場合ニハ帝國政府トシテハ滿洲治安
 維持ノ爲適當ニシテ且有效ナル措置ヲ執ラサルヲ得サルコトアルハ
 シ然レトモ交戦者ニ對シテ嚴正中立ノ態度ヲ持ヌヘキ帝國政府ノ方針
 ニ至ツテハ固ヨリ何等變改無キ次第ナルカ故ニ右ノ如キ措置ニ出ツ
 ル場合ニ於テモ其ノ時機ト方法トニツキテハ兩者ニ對シ何等不公平
 ナル結果ヲ生スルニ至ラサル様周到ノ注意ヲ拂フノ用意有ルコトヲ
 確言ス

(赤 梓 紙)

外務省

S 161531 0057

電送第 8795 號
8796
昭和三年五月十六日 9時10分發

大臣了
政務次官
大藏省
後參事

電 信 案	件	北支動亂ニ對スル帝室ノ態度ニ關スル件	主 任	亞細亞局長
	宛	在支芳澤公使	發 名	田中外務大臣
事 暗		第 二 一 號	昭和三年五月十六日	
(本文別紙、通り) 至急				

S 161531 0060

電送第 3787 號
3788
昭和三年五月十六日 9時一分發

電 信 案	件	北支動亂ニ對スル帝室ノ態度ニ關スル件	主 任	亞細亞局長
	宛	在支芳澤公使 在上海矢野總領事	發 名	田中外務大臣
事 暗		合 第 一 五 二 號	大至急	
本十日夜重要ナル電報三通發電スベキ付 今夜中ニ解許アリ度シ				

S 161531 0059

二一〇一ニ(三)

地無シトスルニ於テハ帝國政府トシテハ之ヲ強制セムトスルノ意
思ハ無キハ勿論ナルモ右ノ結果不幸ニシテ京津方面ニ於テ兩軍接
觸スルカ如キ事態ヲ生スルニ於テハ滿洲ノ治安維持ヲ重視シ同地
方ヲシテ内外人安住ノ地タラシメムコトヲ以テ方針トスル帝國政
府トシテハ滿洲治安維持ノ見地ヨリ必要ナル措置ヲ講セサルヲ得
ス

右ノ如キ場合ヲ豫想シ殊ニ張作霖不利ノ場合同人及滿洲軍ノ進退
ニ關聯シ日本トシテ執ルヘキ措置ヲ研究シタル結果左ノ如ク決定
セリ即チ

(1) 滿洲軍カ南軍京津地方ニ到ラサルニ先チ形勢非ナリト見テ早キ
ニ及ンテ軍ヲ滿洲ニ^(表面上)移ス場合ニハ日本トシテ^(及)拒ム

(赤梓紙)

外務省

S 161531

0063

二一〇一ニ(三)

(赤梓紙)

ヘキ理由無ク而シテ滿洲軍一旦滿洲ニ引上タル後南軍之レヲ討
タムトスル場合ニハ日本ハ戰禍滿洲ニ及フヲ避クルノ見地ヨリ南
軍ノ山海關以北ニ進出スルコトヲ阻止セサルヘカラス

(2) 南北兩軍京津地方ニ於テ交戦スルカ若ハ假令交戦ニ至ラサルモ
兩軍著シク接近シタル後ニ於テ北軍不利ノ狀況ニ於テ滿洲ニ退
却スル場合ニハ南北何レノ軍隊タルヲ問ハス武裝ノママニテ滿
洲ニ進入スルコトヲ許ス可キニアラス

右ノ如キ次第ナルヲ以テ露國政府ハ張作霖及蔣介石^(金曉)一將ヲ通シテ
馮玉祥ニ對シ右帝國政府ノ和平ニ對スル希望及滿洲ニ對スル態
度ヲ披瀝スルコトトナリタルニツイテハ貴官ハ明後十八日張作霖
ニ面會シテ別電第二〇一號覺書ヲ交付シ本電帝國政府ノ眞意ヲ詳

外務省

S 161531

0064

秘

由覽

第二一〇號 (暗)

北支動亂ニ對スル帝國ノ態度ニ關スル
在支芳澤公使宛田中外務大臣發訓電

(昭和三年五月十六日發電)

漢口南京事件ノ如キ近クハ濟南事件ノ如キ不祥事件モ一ニ支那動
亂政情不安定ニ原因シ又各國ノ均シク苦痛ヲ訴ヘツツ有ル各種不
法課税ノ如キモ全ク軍閥ノ戰費捻出ニ原因スル處大ナルモノ有ル
カ故ニ和平ハ單ニ支那人ノ聲ナルノミナラズ歐米諸國人ニ於テモ亦
均シク熱望スルトコロナルハ言フ俟タズ殊ニ接壤ノ關係ハ別トス
ルモ密接ナル貿易關係ヲ有シ多數ノ居留民ヲ支那ニ有スル日本ト

外務省

S 161531

0066

細說明セラレ度シ

尚ホ

武裝セルママ滿洲ニ歸還スルコトハ遺憾ナカラ之レヲ阻止セ
サルヲ得サルカ如キ事態ヲ生スヘキコトヲ充分注意セラレ又張作
霖以外張學良楊宇霆等ニモ陸軍武官若ハ貴館員等ヲシテ充分説明
セシメラレ成ルヘクハ武裝解除ノ如キ問題ヲ起ササル様御措置ア
リ度シ

上海奉天南京濟南青島ニ轉電
天津ニ轉電
天津ニ轉電

(赤梓紙)

外務省

S 161531

0065

シテハ内亂カ一日モ速カニ休止セムコトヲ希望スルハ固ヨリ當然ノ次第ナルカ此帝國政府ノ希望ヲ兩軍ニ披瀝スルニ當リ南北兩軍ニ於テ帝國政府ノ眞意ヲ誤解シ其ノ何レカ一方ヲ助ケムトスル不純ナル動機ニ出テタルモノト解スルカ如キコト有ラハ政府ノ遺憾此上モ無キ次第ナルカ故ニ帝國政府ハ此希望ノ表示殊ニ其ノ時期ニツイテハ今日迄極メテ周到ナル注意ヲ拂ヒタリ最近南軍ノ進出ニ件ヒ戰禍京津地方ニ波及シ其ノ影響或ハ滿洲方面ニモ及ハントスルニ至リタルカ故ニ此時期ニ於テ内外人一般ノ抱懷セル和平ノ希望ヲ披瀝シ兩軍カ和平ノ商議ニ入ルノ可否不能ヲ考慮スルノ機會ヲ作ルコトハ時期ニ於テ必スシモ不適當ナラサルノミナラス實ニ帝國政府ノ責務ナリト信シタリ

(赤 梓 紙)

外 務 省

S 161531

0067

然レトモ右帝國政府ノ希望ニ對シ兩軍ニ於テ之レヲ考慮スルノ餘地無シトスルニ於テハ帝國政府トシテハ之ヲ強制セムトスルノ意思無キハ勿論ナルモ右ノ結果不幸ニシテ京津方面ニ於テ兩軍接觸スルカ如キ事態ヲ生スルニ於テハ滿洲ノ治安維持ヲ重視シ同地方ヲシテ内外人安住ノ地タラシメムコトヲ以テ方針トスル帝國政府トシテハ滿洲治安維持ノ見地ヨリ必要ナル措置ヲ講セサルヲ得ス右ノ如キ場合ヲ豫想シ殊ニ張作霖不利ノ場合同人及滿洲軍ノ進退ニ關聯シ日本トシテ執ルヘキ措置ヲ研究シタル結果左ノ如ク決定セリ即チ

(1) 滿洲軍カ南軍京津地方ニ到ラサルニ先チ形勢非ナリト見テ早キニ及ンテ軍ヲ滿洲ニ返ヘス場合ニハ日本トシテ表面上之レヲ拒

(赤 梓 紙)

外 務 省

S 161531

0068

(赤 梓 紙)

ムヘキ理由無ク而シテ滿洲軍一旦滿洲ニ引上タル後南軍之レヲ討タムトスル場合ニハ日本ハ戰禍滿洲ニ及フヲ避クルノ見地ヨリ南軍ノ山海關以北ニ進出スルコトヲ阻止セサルヘカラス
(ロ)南北兩軍京津地方ニ於テ交戦スルカ若ハ假令交戦ニ至ラサルモ兩軍著シク接近シタル後ニ於テ北軍不利ノ狀況ニ於テ滿洲ニ退却スル場合ニハ南北何レノ軍隊タルヲ問ハス武裝ノママニテ滿洲ニ進入スルコトヲ許ス可キニアラス

三右ノ如キ次第ナルヲ以テ帝國政府ハ張作霖及蔣介石等(蔣ヲ通シテ馮玉祥)ニ對シ右帝國政府ノ和平ニ對スル希望及滿洲ニ對スル態度ヲ披瀝スルコトトナリタルニツイテハ貴官ハ明後十八日(金曜)張作霖ニ面會シテ別電第二一一號覺書ヲ交付シ本電帝國政府

外 務 省

S 161531

0069

(赤 梓 紙)

ノ眞意ヲ詳細説明セラレ度シ

四 尙ホ貴官ハ張作霖ニ對シ此際一日ヲ後ルルニ於テハ滿洲軍ト雖モ武裝セルママ滿洲ニ歸還スルコトハ遺憾ナカラ之レヲ阻止セサルヲ得サルカ如キ事態ヲ生スヘキコトヲ充分注意セラレ又張作霖以外張學良楊宇霆等ニモ公使館附武官若ハ貴館員等ヲシテ充分説明セシメラレ成ルヘクハ武裝解除ノ如キ問題ヲ起ササル様御措置アリ度シ

別電ト共ニ上海奉天南京濟南青島ニ轉電シ奉天ヨリ在滿各領事ニ又上海ヨリ漢口、廣東ニ轉電セシメタリ
別電ト共ニ天津ニ轉電アリ度シ

外 務 省

S 161531

0070

大臣了
政務次官
大官信
参事
情報部長

電送第 8794 號
昭和 7 年 5 月 16 日 9 時 0 分發

電信課長 藤田

主 任 細 亞 局 長

主 任 細 亞 局 第 一 課

草 大 昭和 7 年 5 月 16 日

(原議用紙甲) 欄納

件 南北兩軍ニ支那ニキ覺者

在 芝

芳澤公使

名 込 綴

田 中 大 臣

別 電

第 一 〇 一 號

至 急

永年ニ亘ル支那戦乱ノ結果一般國民ノ生活ハ極カノ不安ト
 困憊トニ陥リ支那在留外國人亦居ニ安シ業ニ從フニ由ナキ
 状況ニ有ルヲ以テ戦乱カ一日モ速ニ終熄シ統一セル和示ノ
 支那ヲ見ルニ至ラムニトハ外交人ノ均シク熱望スルトコロニシ

電 信 案

外 務 省

S 161531 0071

(原議用紙乙) 欄納

テ 殊ニ支那ノ隣邦トシテ利害關係特ニ深キ帝國ノ趨望
 テ 播カサル所ナリ然レニ今ヤ動乱京津地方ニ波及セムトシ滿洲ノ地モ
 亦將ニ其ノ影響ヲ蒙ラムトスニ至ル處 抑モ滿洲ノ治安維持
 ハ帝國ノ最も重視スル所ニシテ苟モ同地方ノ治安ヲ紊レ若クハ
 之ヲ紊スノ原因ヲ為スカ如キ事態ノ發生ハ帝國政府ノ極力
 阻止セムトスル所ナリ故ニ戦乱京津地方ニ進展シ其ノ禍亂
 滿洲ニ及ハムトスル場合ニ帝國政府トシテハ滿洲治安維持ノ爲

電 信 案

外 務 省

S 161531 0072

電送第 8813 號
昭和 3 年 5 月 16 日 午後 9 時 10 分發

大臣了
政務次官了
次官了
後
後
情報部長

電信課長	主任 亞細亞局長	主任 亞細亞局長第 一課	主任 亞細亞局長第 一課
件	北支動亂、對之方針、總論	件	北支動亂、對之方針、總論
宛	在上海	宛	在上海
件	在支公使宛任電カ 二〇号三箇シ	件	在支公使宛任電カ 二〇号三箇シ
件	貴官、明後十八日、黃郛若、南京政府、然ルニ	件	貴官、明後十八日、黃郛若、南京政府、然ルニ
件	代表者三箇名、同公使宛任電カ 二二号覽書	件	代表者三箇名、同公使宛任電カ 二二号覽書
件	ヲ交付シタル後、前記任電カ 二二号ヲ一項及	件	ヲ交付シタル後、前記任電カ 二二号ヲ一項及

S 161531 0076

電送第 8791-93 號
昭和 3 年 5 月 16 日 午後 9 時 0 分發

電信課長	主任 亞細亞局長	主任 亞細亞局長第 一課	主任 亞細亞局長第 一課
件	北支動亂、對之方針、總論	件	北支動亂、對之方針、總論
宛	在上海	宛	在上海
件	在支公使宛任電カ 二〇号三箇シ	件	在支公使宛任電カ 二〇号三箇シ
件	貴官、明後十八日、黃郛若、南京政府、然ルニ	件	貴官、明後十八日、黃郛若、南京政府、然ルニ
件	代表者三箇名、同公使宛任電カ 二二号覽書	件	代表者三箇名、同公使宛任電カ 二二号覽書
件	ヲ交付シタル後、前記任電カ 二二号ヲ一項及	件	ヲ交付シタル後、前記任電カ 二二号ヲ一項及

S 161531 0075

(原議用紙乙) 國納

カ二項ノ主旨ヲ篤ト認明ノ上張作霖援助等
ノ誤解ヲ起サシメサル様充分留意相成度
上記帝國政府ノ費者ハ黃郛若ハ南京政府
ノ然ルキ代表者ヨリ馮玉祥ニ傳達セシメ度
又王正廷貴地ニアラハ馮玉祥代表ノ意味於テ
同人文字ヲ交付シ説明シ置カレ度

北京南京奉天濟南青島ニ轉電ナリ

電信案 豫ルハ 廣東ニ轉電ナリ外 務 省

S 161531

0077

REEL No. A-0782

秘

電信寫

昭和五 五八〇六 暗

北京 本省

五月十六日前着

田中外務大臣

芳澤公使

第六五〇號ノ一(主電。極秘)

十五日姚震本使ヲ來訪シ大勢ヨリ判斷スルニ張作霖ハ最早北京ヲ逃ケ出ス外途無キ狀態ナルカ張逃出後ハ非常ニ重要ナル局面ヲ演出スヘク日本トシテモ慎重ニ考慮ノ必要有リト思惟セラルル處自分(姚)ハ山西代表南桂馨周勃トノ間ニ秘密協定ヲ爲セリトテ示シタルカ之ニ依レハ大要

日本側ハ最短期間内ニ張作霖ニ出關ヲ勸告ス

保定馬廠ノ戰線内ニ馮玉祥ニ勸告シテ同軍ヲ入レシメ馮若シ

之ニ從ハサレハ山西及南京側ハ馮ヲ援助セス(即チ馮ヲ討ツ事

ハ外國側ノ勝手ナリトノ意味ナリ)

張作霖ハ中央ノ政權及近畿ノ治安維持ハ段祺瑞ニ引渡ス段ハ迪

電ヲ發シテ各方面ノ意見ヲ徵シ國是ヲ定ム

右ニ對シ閩ハ贊成ノ電報ヲ發シ各方面ヲ糾合シテ之ニ贊同ス

トアリ南。周及姚震署名シ居レリ

右ニ基キ姚ハ本使ニ對シ頼リニ張作霖ノ關外退出ヲ勸告セラレタシト申出テ種々問答ヲ重ネタルカ本使ハ張カ段ニ政權ヲ交付スルトスルモ段ニハ兵力無シ故ニ馮軍ニシテ保定馬廠ノ線ヨリ以北ニ入ラサル時ハ京津地方ノ治安維持ノ責ハ何人カ之ニ任スルヤト問ヒシニ姚ハ馮ハ露國ト懸縁有リ支那各方面ニ人望無キ故ニ馮ノ存在スル間ハ支那ノ治安維持セラレス張脱出後ハ何レ近キ將來ニ閩

ト馮トノ戰有ルヘシ(極ク)

北

S 161531 0079

S 161531 0078

REEL No. A-0782

アジア歴史資料センター